

シンポジウム 8

骨代謝マーカー up to date 2026

【骨代謝マーカー検討委員会企画シンポジウム】

2026年9月11日(金) 9:00 – 10:30 | 第3会場（2F メインホールB）

座長

三浦 雅一（学校法人北陸大学）

今西 康雄（大阪公立大学大学院医学研究科 血管病態制御学・骨・内分泌内科）

講演プログラム（全6題）

1-SY8-1 骨代謝マーカーの現状と将来展望 — ハーモナイゼーションを含めて

三浦 雅一（学校法人北陸大学）

検査件数は年410万件、P1NPとTRACP-5bで78%。本年1月に世界初の国産ラテックス法Intact P1NP試薬が保険適用。IOF-IFCCはCKD関連骨粗鬆症にBAP等を推奨。

1-SY8-2 骨代謝マーカーのオーバービューとデノスマブ投与における骨代謝マーカーの変動と治療評価

中村 幸男（愛知医科大学 整形外科）

患者数約1590万人。骨密度だけでなく骨質・骨強度を含む総合評価が重要。THA後の人工関節周囲骨折は骨粗鬆症例に発生しており、術前の骨質評価とステムサイズ選択が鍵。

1-SY8-3 副甲状腺ホルモン受容体作動薬による骨代謝マーカーの変動と治療評価

高田 潤一（札幌円山整形外科病院 骨粗鬆症センター）

テリパラチド連日・週1・週2製剤とアバロパラチドでマーカーの変動パターンは異なる。各薬剤における骨形成／骨吸収マーカーの推移、適切な測定時期、その後の骨密度増加との関係を中心に述べる。

1-SY8-4 ロモソズマブ投与における骨代謝マーカー

今西 康雄（大阪公立大学大学院医学研究科 骨・内分泌内科）

P1NPは早期に上昇後に基準値付近へ低下し、TRACP-5bは低下が持続。骨形成と骨吸収のアンカップリング＝アナボリックウィンドウを反映する特徴的推移で、治療反応性やアドヒアランスの評価にも有用。

1-SY8-5 骨マトリックスマーカー：ペントシジン測定開発の現状と展望

斎藤 充（ほか）（東京慈恵会医科大学 整形外科学講座）

骨質は「材質」と「微細構造」に分けて評価すべきとの国際的潮流を整理。骨基質の終末糖化産物AGEsのバイオマーカー化を、骨生検・長野コホート等のデータから論じる。

1-SY8-6 ビタミンD欠乏症の有病率の推移とそのリスク：地域住民コホートROAD長期追跡調査より

吉村 典子（ほか）（東京大学 22世紀医療センター ロコモ予防学講座）

住民コホートROADのベースライン調査と10年後の第4回調査で血清25(OH)Dを測定・比較し、一般住民におけるビタミンD不足症・欠乏症の10年間の推移と、欠乏症のリスク要因を報告する。